

久留米の自然



2007年1月1日

第95号

マガモとカルガモ

撮影場所

金丸川下流

撮影時期

2006年12月6日

撮影者

橋田 沙弓

金丸川の水鳥の推移

野口 勝司

市内を流れる二級河川の新丸川流域に飛来する鳥類の過去十余年間に於ける観察結果気づいた点についてお知らせすることにした。観察流域は筑後川への合流点より500m位上流の古賀坂水門付近から中流の津福上橋（柳川県道）付近まで長さ約2kmの区域対象 期間は秋季（9-11）月とした。

1 観察できなくなった鳥 コリカモメ（冬鳥）1998年まで観察された。古賀坂水門付近まで15-20位の集団 池町川合流点付近まで飛来して来たこともある。1999年以降観察されない。

2 急増してきた鳥 カモ類（カルガモ、ヒドリガモ、マガモの類）1998年以降 古賀坂水門より池町川下流まで。混成で多数群棲している。11月末より翌春3月に集中 水門付近 上鶴橋付近 池町川と新丸川との合流点の三カ所に群棲している。水量の変化（潮の干満）で多少移動しているように思われる。

3 普通に観察できる鳥

コサギ - 2000年以降僅かに減少。ハクセキレイ2004年以降大きく減少。アオサギ - 1994年以降微増、2004年以降減少。イソシギ - 変動少ない。

4 その他の水鳥類

ゴイサギ カワセミ アマサギ（夏） セグロセキレイ、キセキレイ、カイツムリ（冬）

参考事項

河川の拡張工事、護岸工事、潮の干満による水流や水深の変化などによって鳥類の採餌場所が移動している。多くの鳥類が集まる場所は新丸川と池町川の合流点付近位である。

カルガモ - アヒル位の留鳥 白っぽい顔に黒い透眼線 嘴の先は橙黄色、雌雄同色 足は赤い。池、沼、川に棲み全国で繁殖している。水草等を採餌。

マガモ - アヒルはマガモを家禽化したもので冬鳥。雄は頭、頸が緑色 白い首輪 雌は地味グエーグエーと鳴く。



古賀幸雄名誉顧問が平成18年9月23日満86歳で亡くなりました。

古賀幸雄名誉顧問を偲んで

会長 橋田 沙弓

古賀幸雄先生との出会いは、故秋吉満郷土史家の提唱で市教育クラブで開かれた会合でした。1972年秋吉氏が高良山の鷲の尾岳横の神護石が梅雨期の集中豪雨で崩壊したのを発見されたことがきっかけでした。原因は高良大社の駐車場建設のために、鷲の尾岳の1/3を削りとり、頂上付近から高良大社の方向へ2kmに渡る断層が生じた結果でした。高良山の破壊行為にかかわる事件に関して、古賀幸雄先生(元久留米郷土研究会会長)を中心に、故梅野明先生(元久留米昆虫同好会会長)、故小林實先生(元日本野鳥の会福岡支部会長)、丹部竹志先生(元久留

米野草の会会長)を4本の柱として対応してきました。のちにこの会は発展的に「久留米の自然を守る会」に、改称しました。「高良山つつじ公園化反対」の起草文は古賀先生にみんなをお願いしました。それ以来、「高良山ゴルフ場建設反対」など、事あるごとに報告し、ご意見をお伺いしました。古賀先生はいつお伺いしても、親切に対応されました。その歴史的深い洞察から適切な助言をして下さいました。会報「久留米の自然」にも何度もシリーズで執筆され、古文書などによる独自の郷土の史実発見が多く、私たちを文書で支援されていました。当会にとって、精神的中心であり、尊敬と信頼の存在でした。

奥様が急に自宅で倒れられ、ご家族の献身的看病で奇跡的に快復されました。古賀先生は終始おだやかに自宅介護に専念され、夫婦になって、今が一番幸せだと言われていました。奥様が永眠されて、今後は少しでも、皆さんのお役に立ちたいと言われ、会報に4回シリーズで最後の原稿を書き終わられました。古賀先生のご冥福をお祈り申し上げます。

古賀幸雄先生を偲んで

副会長 河内 俊英

古賀先生との出会いはかれこれ30年前になります。柳坂のハゼ並木の伐採計画が出てきて、当会「自然を守る会」で保存活動に力を注いでいた時期に、「久留米藩と櫛蠟」について教えていただいたころでしょうか。

その後、「温石湯の近くの山に、ゴルフ場計画が出た時」、「高良山の森林公園に大きな駐車場建設計画が出された」り、「高良大社が神社とともに国宝に指定されている神社林を勝手に伐採して新しい道路を計画した時」にお知恵を拝借しました。

またこの20年間当会でも反対してきた「杉谷の久留米市廃棄物最終処分場」に関して、高良銅山の存在、あるいは杉谷の寺尾川の由来など、歴史がらみで判らないことが起きると教えていただける恩師のような存在としての思い出が残っています。

ご葬儀のときのご宗派が禅宗・我が家と同じということだったので、ますます身近な恩師と感じました。晩年にもっとお訪ねして、話を聞かせていただいたら良かったと後悔しているところです。

合 掌

久留米の蝶35

ナガサキアゲハ

国分 謙一

お正月になると、家々の玄関に注連飾り(しめかざり)を飾ります。その中央にあるミカンはダイダイで、これは子孫代々と続くようにとの事だそうです。このダイダイを幼虫が食べる蝶としてナガサキアゲハ(長崎鳳蝶)がいます、これは江戸時代末に長崎の出島に来ていたシーボルトが日本産を基に、ペリーが浦賀に来る29年も前の1824(文政7)年に学会に発表したからです。なお、亜種名(地理的変異名)となっているツンベルクは植物学者で、日本の初期の植物に関する重要な人物で1775年に来朝し江戸に来たことがあり、箱根で動植物を採集したとのこと。ナガサキアゲハの幼虫の食草はミカン科ですが、野生種でなく殆どが栽培種を食べます、図鑑などにはキンカンも記述されていますが、私の家に10年以上もあるキンカンに幼虫が発生しているのを見たことがありません。

雄と雌の区別は、雄は前後羽とも黒色に青い粉を少し振りかけたようになっていますが、雌は前羽の元に赤い紋、後羽に大きな白斑が出現するので簡単に区別できます。

筑後地方に関する2題

ナガサキアゲハの型名として筑後地方に関する二つの名称が名付けられています、現在は殆ど使用されることもなく、昆虫専門書に時々使用される時もありますが、一つは高良山の名称を使用しているので覚えてもらえればと思います。

高良山

高良山の名称が使用されKORASANA型と言います。これは、久留米の自然を守る会の会長でもあった、梅野明氏が高良山で採集されたものを基に1937年に学会に発表されたものです。雄の前羽基部は他の部分と同じく黒色が普通で、ときに小さな薄い赤紋が現れることが在りますが、特にこの赤紋が発達し雌と同じようになったものに名付けられました。高良大社下の広場にある昆虫塔のモデルにもなった蝶

ですし、また「久留米の自然」第5号の表紙を飾りました。

タカムク型

柳川に生まれ、昆虫研究家でもあった高棕梯吉氏(1875~1930)の名前が付けられています。氏は明治から昭和にかけて、日本の昆虫学者の第1人者であった北海道大学の松村教授と親交が在り、現在でもタカムクチョウやタカムクカレハ等が知られており、特にタカムクシャチホコという蛾の一種は学名(世界共通名)に属名、種名、和名と全てにタカムクと名付けられています。ナガサキアゲハには、松村教授により雄とそっくりで後羽の白斑が全て消失した雌にタカムク型と名付けられました。

分布の拡大

昭和の初め頃までは九州と四国にしか棲息していませんでした。昭和4(1929)年に本州最初として山口県での報告があり、その後少しずつ棲息範囲を広げ、現在では東京、千葉県など関東地方まで生息するようになりました。この拡大の遍歴は昆虫の中でもよく研究されていて、温暖化現象として蝶の分布拡大のシンボリックな昆虫です。

久留米市での観察

久留米市では多く4月中下旬から10月上旬まで見られ、大きくまたゆったりと人家の廻りを飛び、山中では殆ど見ることはありません。特にミカン畑や垣根のカラタチの周りでは数多く見ることができ、幼虫も蛹もいてミカンの枝を花瓶などに挿しておくだけで育てることができます。



オス

後翅に白紋があるのが
メス

生き物に魅せられて その35**ニホンアカガエルの巻き 松永紀代子**

2004年1月末、小都市三沢の簡保レクセ
ンター跡地の水溜りをのぞいた。おお、あるあ
る、ニホンアカガエルの卵塊だ。昨晩は雨だっ
たから産みたてだろう。

簡保跡地でこのカエルの存在を知ったのは
2002年の春だった。一緒にいた次男が水溜
りに網を入れた途端、わじゃわじゃとオタマジ
ヤクシが入ったのだ。あの頃は水溜りだけだ
った。

年々水溜りは砂利で埋められ、カエルの産卵
場も減っていった。元々湿地になりやすい土地
柄である。なんとか簡保レクセセンター跡地の一
部に昔の三沢を取り戻せないだろうか。そんな
ことを考えて三国丘陵の自然を楽しむ会を立ち
上げた。この卵塊の観察会を2月25日(日)
に行う。詳細は092-920-3072。
willard@mbc.ocn.ne.jp 松永まで

筑後チルドレンズ・キャンパス事業**「みずの物語(筑後川)」~見て、聴いて、さわっ
て、食べて感じる筑後川~**

2006年10月7日(土)~8日(日)の二日間、主
催は(財)久留米市総合管理公社で参加者は中学
生1人、小学生13人(久留米市6人、朝倉市
4人、柳川市3人、筑紫野市1人)であった。
テーマにもとづき、筑後川発見館「くるめウス」
で川の魚たちや流域の歴史・文化・自然環境を
学び、高良川下流周辺で子どもたちは魚とり、
昆虫や植物観察の体験学習が行われた。筑後川
まるごと博物館から2人、当会から魚類は山川
米田、植物は橋田、昆虫は行徳が指導担当する
ことになった。「くるめウス」見学をしたあと、
さくら橋下で3班に分かれて高良川の自然を
体感しながら、河川敷と堤防道路を歩いて、高
良川公園まで到達した。ここで、夕食と朝食用
の野草の葉を摘み取った。夕食の献立は野草の
天ぷら、よめなごはん、せりごはん。朝食はよ
もぎ団子、昼食は野草のやきそばであった。昆
虫班の行徳直久氏より昆虫報告を貰いました。

<1日目>イチモンジセセリ、アゲハチョウ、
モンシロチョウ、キチョウ、ウラナミシジミ、
ヤマトシジミ、ベニシジミ、ツマグロヒョウモ
ン、キタテハ、ヒメアカタテハ、アカタテハ、
ヒメウラナミジャノメ、ヒメジャノメ、フクラ
スズメ(幼虫)、アオモンイトトンボ、ウスバキ
トンボ、トノサマバタ、ショウリョウバタ、
ツチイナゴ、ヒシバタ、エンマコオロギ(鳴声)、
アオマツムシ、ホシササキリ、ナナホシテント
ウ、ミイデラゴミムシ、ツクツクホウシ(鳴声)、
キマダラカメムシ(成虫、幼虫)、ヨコヅナサシ
ガメ(幼虫)、チャバネアオカメムシ、ツヤアオ
カメムシ、キアシナガバチ、フタモンアシナガ
バチ(巣と成虫)、シオヤアブ、センチクバエ(以
上34種)

<2日目>新たに見つけた昆虫キアゲハ(幼虫)
モンキチョウ、ハグロトンボ、タテハモドキ(夏
型:3 秋型:2)・南方系の蝶で九州を北上中(2日
間合計38種) (S.H.)

**ひととき 動物笑い話 その40
ラクダ**

彼女と鳥取砂丘へ行った時、ラクダに乗った
よ。「月の砂漠」の歌のような王子様とお姫様の
気分を味わいたくてね。しかし、左右によく揺
れて馬より「楽だ」とは思わなかった。こぶに
何が詰まっているのだろうと耳をそばだてて拳
で叩いたら、ラクダが興奮して振り落とされて
しまった。砂地だから安心と思いきや、不幸に
も砂の下に隠れた小石に頭をぶつけて少し脹れ
たよ。彼女から「馬鹿ね、ラクダのこぶは水が
めではないのよ。乗馬上手な貴方でも、さすが
にラクダではこぶが付きものね」と冷やかされ
たよ。

*ラクダ科に属し、中央アジアにフタコブラ
クダ、東アフリカや中近東にヒトコブラクダが
いる。砂漠に適應し、砂に沈まない幅広の足指、
砂嵐から身を守る閉じられる鼻孔や長い睫を有
し、砂漠の船として主に荷役に使用されるが、
乳製品等も利用される。(Y.Y)

例会報告

336回例会・観月会 晴れた！

今村 由子

このところ毎回激しい雨に見舞われた観月会でしたが、今年は見事に晴れて、月を観察することができました。今回は筑後川まるごと博物館との共催事業として、場所も筑後川発見館くるめウスに移しての開催となりました。小学生24名を含む56名の参加があり、毎年天体望遠鏡を持ってご協力いただいている吉田哲麿氏の講話、友情参加のカサブランカの皆様の合唱を楽しみました。

ゆめタウンに隣接したロケーションに、真っ暗な夜空というわけにはいきませんでした。街中で手軽にお月見。初めてみる月の様子と、やはり掘りたてのホクホクお芋に人気が集。筑後川の魚たちも交えて、自然の恵みを感じるひと時でした。

たのしかったおつきみかい

きたのしょうがっこう 1ねん1くみ

ひらお あゆみ

わたしは、くるめうすでどくしょかいのおともだちといっしょに、てんたいぼうえんきょうでつきをみました。つきは、まわりがぼこぼこして、つきのいろがきいろできらきらしてとてもきれいでした。まえにーかーいだけぼうえんきょうで、みたことがあるけど、きょうのがーばんきれいでした。

つきをみたあと、まっちゃをのみました。さいしょはおいしいなあとおもったけど、さいごのほうはすこしにがかったです。みんなでうたった、なだそうそうのうたも、わたしは、しっていたのでしょうずにうたえました。

くるめうすの大きなすいそうのなかには、たくさんのさかなや、かにや、ざりがにがいました。

とてもたのしかったです。またてんたいぼうえんきょうでつきをみたいとおもいます。

観月会に参加して

北野小統書会 川下 寿子

めっきり秋らしく、朝夕は冷え込むようになりました。先日は、観月会に参加させていただき、大変お世話になりました。

月のでこぼこしたところは今でも目に焼きついています。子供たちもすごいすごい連発でした。お抹茶体験もはじめての子供が多く、大人の仲間入りができた気分と喜んでくれていました。数日後の仲秋の名月は天気もよく、ここ数年でいちばんきれいだった気がします。本当に貴重な体験をありがとうございました。



カサブランカのみなさん



天体観察をする子ども



記念写真

第337回例会

ネイチャーゲームと自然観察会

10月15日(日)快晴、参加者24名(子どもは、12名)でした。親子参加には乳母車利用者もあり、少しびっくり。くるめネイチャーゲームの会と市農林課との共催でした。この日は全国一斉ネイチャーゲーム大会の日でもあったのです。高良内幼稚園の駐車場に集合し、行きは四季の森経由で森林公園へテーマ「森のいのちを感じよう」というディスカバーウォークを行いました。その途中、クチベニタケやムラサキホコリカビという変形菌が見つかり、野外での発見は私は初めてで、感動しました。角正博幹事の話では胞子を飛ばすために見晴らしのきく樹木の1.5mくらいのところに紫色の胞子体をつくったようです。昼食後、子どもたちと、ノーズと目かくし芋虫というネイチャーゲームをしました。帰りは後ろ谷コースを宝さがしをしながら下山しました。子どもたちはカマキリを捕まえて大喜びでした。最後に、宝を見せ合い、まとめをしておわりました。

菌類観察チェックリスト()内は付着植物
スエヒロタケ、アイコウヤクタケ(広葉樹落枝)、
モミジウロコタケ(立ち枯れ)、カワラタケ(広
葉樹倒木、落枝)、エゴノキタケ(広葉樹立ち枯
れ、倒木、落枝)、ミイロアマタケ(広葉樹立ち
枯れ)、カイガラタケ、ヒイロタケ(広葉樹倒木)、
ヒメシロカイメンタケ(スギ切り株)、コフキサ
ルノコシカケ(さくら立ち枯れ)、アカウロコタ
ケ(広葉樹落枝)、ニッケイタケ(山道に面する
土崖)、ワヒダタケ(広葉樹倒木)、ダイダイタ
ケ(広葉樹根元)、コツブタケ(林下路傍)、ク
チベニタケ(山道に面する土崖)、コガネニカワ
タケ(広葉樹倒木)、アラゲキクラゲ(広葉樹立
ち枯れ)、マメザヤタケ(ボロボロノキ根元)・
角正博氏提供 (S.H.)

ネイチャーゲームと自然観察会

山川小2年 ふち上さきこ

10月15日、日曜日山にのぼるとちゅうに、
ドングリをひろったり、おちばをひろったりマ
ツボクリや小さなきのみをひろいました。う
えにのぼって、おべんとうもたべて、いも虫で、
はんかちでめかくしをして、森林公園のみちを
あるいて、かいだんのくんだり、あがりがちよっ
とこわかったです。てのひらで風をかんじたり、
たいようをかんじたりして、とてもきもちよか
かったです。とてもたのしかったです。



山のぼり

山川小2年 中村 采花

日曜日に、さき子ちゃんとさき子ちゃんのお
母さんとわたしとわたしのお母さんとりゅう先
生とほかの人たちといっしょに山のぼりに行き
ました。山のぼりする人があんまりいませんで
した。それで、1れつでならんで行きました。
さいしょに、どんぐりがいっぱいありました。
ぼうしがついているどんぐりとかがありました。
それで、ずっとさきに行くところできゅうけい
をしました。わたしはサイダー
をもってきたからサイダーをのみました。とて
もはながじんとしました。でもおいしかったで
す。それから、山のぼりの人たちのおはなしが
おわって、ずっとすすんでいくと、べんとうを
食べるころにつきました。いままで、いっば
いかいだんがありました。とても足がいたかつ
たです。それで、おべんとうを食べました。お
べんとうとおやつを食べ終わったときに、ネ
チャーゲームをしました。とてもおもしろかつ
たです。そのあいだに、わたしのお母さんとさ
きこちゃんのお母さんがシートでねていました。
そのあとリュックをさげて、むこうにいくと、
またゲームをしました。とてもおもしろかつ
たです。

環境シンポジウム

河内 俊英

久留米の「ゴミ量をさらに減らすためにいま市民がやれること」ということで、以下のようなシンポジウムを開催しました。主催は「久留米の自然を守る会」と「ゴミ問題連絡会」、「筑後川流域連携倶楽部」などでした。

市民だけでやるよりも、久留米市に加わってもらって、一緒に考えることが重要ということで、久留米市の担当部局環境部に申し入れましたが、怖がって??良い返事が得られませんでした。

止む無く江藤市長宛に橋田会長がパネリスト派遣の願いを出しました。この名文が功を奏して、講師を派遣いただけるようになりました。

また私達を中心とした開催では市は参加し難い様ですし、アピール性も小さいので、これまでも共同開催してきた筑後川流域連携倶楽部との共催のお願いと久留米大学経済学部の駄田井正教授にコーディネーターをお願いしました。開催日時は以下のようでした。

2006年10月7日(土)13:30~16:00
開催場所は、久留米大学御井学舎としました。

内容としては

「大木町の有機廃棄物リサイクルの取り組み」ということで、大木町職員の境公雄氏にお願いしました。大木町では、生ゴミははじめ酪農排泄物、し尿も含めて、ガスプラントでバイオガスを取り出し燃料として使用する、また残った液肥は農地還元して肥料にするという画期的事業を始めました。つまり生ゴミは焼却せず、またし尿処理場も不要ということになります。

久留米市議の石橋剛氏には議会で発表された「ゼロウエスト(ゴミゼロ)を目ざそう」ということで、持論を紹介いただきました。

飲食店から出る生ゴミのリサイクルを実践している「くるめ大地といのちの会」白仁田氏に事業を紹介していただきました。生ゴミで堆肥をつくり、畑に還元して野菜を栽培して、お店でできた野菜を使うという試みです。

久留米市の吉田茂課長には、「久留米市のゴミ

減量の実情について」報告いただきました。

当会の河内は、日本でも実施可能な欧米のゴミ処理方法について紹介しました。具体的には、焼却ゴミの削減のために生ゴミを燃やさず、堆肥化することと、大木町方式でバイオガス化する二つがあります。ただガス化はとりあえずは、余力のある下水処理場を利用して、生ゴミを処理場に持ち込みガスを発生させ、久留米市ガス企業局の都市ガスに混ぜて利用することが可能であることを紹介しました。新潟県・長岡市では下水処理場で発生したガスを民間ガス会社に販売している実例があります。

また、欧米ではゴミ焼却場の周辺でガンが多発しているなどの問題を中心にゴミの焼却処理の安全性が問われていることを紹介しました。

シンポジウムは、努力の甲斐があって、久留米大学の学生も含め予想外の参加がありました。また感想アンケートには、「境さんの大木町の事業の話」と河内の「欧米のゴミ処理方法」の話は改めて詳細に聞きたいと再度のシンポジウムの要請もあっており、成功裏に終了しました。



パネラーのみなさん



中央は筆者

《行事案内》

第340回例会:総会と講演と新年会

2007年度の総会の後、講師猪上信義氏(県森林林業技術センター)の講演会を行います。

〔日 時〕: 1月13日(土) 14:00~16:30

〔総 会〕: 会則改正案他 14:00~14:50

〔講演会〕: 「郷土の植物」 15:00~16:30

〔会 場〕: 市役所3階305会議室

〔参加費〕: 100円

* 新年会を18:00より「食彩館山咲(やまさき)」(Tel/30-6515 日吉町28-13)で行います。会費3500円でどなたでも参加できます。

第341回例会:ビデオ鑑賞

「筑後川と久留米の人々」というビデオを鑑賞し、山口淳氏(市文化財保護課)の説明があります。

〔日 時〕: 2月3日(土) 13:00 受付

〔会 場〕: えーるピア久留米2階209号室

〔ビデオ〕: ビデオ鑑賞と説明 13:30~15:00

〔参加費〕: 100円

第342回例会:

筑後川春の野草を愉しむ会

筑後川の河川敷の野草(薬草)を観察し味わいます。野草で体内を浄化しましょう。筑後川まるごと博物館と共催なので、たのしいイベントが用意されています。小雨決行。

〔日 時〕: 3月25日(日) 9:00~15:00

〔集合・解散〕: 筑後川発見館 9:00 15:00

〔参加費〕: 400円

〔共 催〕: 筑後川まるごと博物館

〔持参物〕: ごはん、おはし、おわん、水筒

* 野草の事前採集を3月24日(土)に行います。オランダガラシ、ツクシ、ユキノシタ、ノビル、アブラナやツバキの花など採取します。山本町豊田 柳坂バス停 13:00 集合、16:00 解散。

《事務局だより》

いじめなどが原因で自殺する子どもの報道が相次いだ。いじめは確かにいけないことだが、それ以前に、自殺も自分というかけがえのない命を無理やり奪い取る殺人であること、何があるうと人を殺してはいけないように、何があっても自殺はいけないことなのだ、という感覚が抜け落ちているように思える。核家族化して身近に死を体験することが少なくなり、自然の中で生命の尊さ・はかなさを学ぶ機会が減っている現在、自殺が相手へのダメージを与える手段として弄ばれているように思えるのはおもいすごしだろうか。

「久留米の自然を守る会」ホームページ
<http://kurumenoshizen.net>

(金原優子)

1. 会費納入について

会費は、会の活動を支える源です。また、会費を納入していない人は振替用紙(口座番号01750-1-40114)に年会費2000円をご確認のうえ納入をお願いします。

2. 原稿募集

次号96号は平成19年4月1日発行予定です。原稿の〆切は3月1日です。皆さんの原稿をお待ちします。

3. 幹事会のご案内

幹事会(定例)は原則として毎月第1水曜日の19:00~21:00まで、西町教育集会所で行います。皆さんも気軽にご参加下さい。(1月10日、2月7日、3月7日、4月4日)

久留米の自然

平成19年1月1日 第95号

発行 久留米の自然を守る会

発行者 橋田沙弓

事務局 〒839-0851

久留米市御井町1595-9 金原優子方

TEL・FAX 0942-44-1942

印刷(有)プリンティング コガ

TEL 0944-88-0027 FAX 0944-88-0029